



包括的学校給食プログラム： 進捗状況と効果の物語

用語集

ISFP	包括的學校給食プログラム
MBSSE	基礎中等教育省
TOT	トレーナー研修
HGSFP	統合型自校式学校給食プログラム
PIIA	プロジェクト実施・推進地域
NFI	非食品
PISL	プラン・インターナショナル・シエラレオネ
RM	地域マネージャー
GTAs	ジェンダートランスフォーマティブ・アニメーター
FM	フード・モニター
GE&I	ジェンダー平等とインクルージョン
WAR	西部地区地方
SMC	学校運営委員会

編集者/執筆者

Augustina Sankoh

コミュニケーション調整担当

写真家

Augustina Sankoh

コミュニケーション調整担当

Chiara Herold

コミュニケーション調整担当

寄稿者

Evariste Sindyigaya

国別代表

Andrew Iraguha

チームリーダー

Emily Curran

プログラム担当者

Awoyinka Kolawole

生計専門家

Jabbie Amadu

監視情報システム調整員

Sulaiman Sawaneh

説明責任とフィードバック調整員

Fiona Kaikai Esther

ジェンダー平等・包摂顧問

Elliot-Nyuma Conrad

子どもの保護専門家

Kamara George

物流調整員

Koroma

監視・評価調整員

目次

国別代表メッセージ	05
大臣メッセージ	06
チームリーダーメッセージ	07
プログラムの背景	08
プログラム概要	10
プログラムの目的	12
フェーズ1、2、3、4	13
学校給食プログラムの監視と評価	14
TOT	15
コミュニティ参加	17
学校給食におけるジェンダー平等と包摂	18
WAR立ち上げ	19
自家栽培活動	20
影響力のある物語	22
1 成功を支える燃料：満腹がIshaの教育を後押しする	23
2 学校給食の力：Kadiatuの物語	26
3 学校給食を通しての学業と人間的成長	28
4 ISFPのガリ生産担当の紹介	30
コミュニティ・フィードバック体制	34
Telerivet	35

国統括事務所長メッセージ



EVARISTE SINDAYIGAYA

プラン・インターナショナルシエラレオネ (PISL)

国統括事務所長

2018-2023

プラン・インターナショナルとしては、女の子が皆世界的な変化を生み出すために強く立ち向かい、子ども、特に女の子が、仕事と生活のためのスキルを学ぶ必要があると考えている。更に、包摂的で質の高い教育への普遍的なアクセスという課題は、私たちの重要な課題である。そのため、私たちは、女の子が学校に通い続け、基礎教育と中等教育を修了できるようにするための学校給食の価値を認めている。

そのため、PISLはシエラレオネ政府と協力し、女の子と男の子、そして危機下にある子どものために、包摂的、公平、継続的、支援的な教育基盤を促進するため、持続可能な教育へのアクセスと子ども、特に女の子の教育権を向上させるという包括的な成果を掲げてISFPを実施している。ISFPの中間成果としては、1)女の子と男の子の教育へのアクセスの改善、2)市場へのアクセスや農業ビジネスの生産と経済における女性の参加の改善、3)ジェンダー平等、急進的な包摂、子どもの保護に関する関係者とコミュニティの意識の向上が挙げられる。

シエラレオネ政府による、子どもが学校給食を受け、学校で成長するために必要な支援を受けられるようにするための取り組みは、並々ならぬものである。ISFPは、小学校への就学率と定着率を向上させ、貧しい家庭の子どもにも教育を受ける機会を与え、不合格や中途退学を減らしている。遠隔地のコミュニティに暮らす子どもたちにとって、学校給食は教育の継続に貢献することで、必要不可欠な保障措置となっている。シエラレオネ政府が、学校給食を社会保護プログラムから、万人のための食料と栄養の安全保障を確保する同国の戦略の中核に据えたことに感謝する。栄養状態を改善し、零細農家を増やし、飢餓をなくすための戦略として、自校式の学校給食を採用したことは称賛に値する。MBSSEのリーダーが、学校での子どもの定着率、出席率、成績を向上させるために、学校給食を優先事項としていることに感謝する。

私たちの日々の活動を可能にし、女の子が学び、主導し、決断し、成長するのを支援する私たちを支えてくれた全てのパートナーに心から感謝する。本誌のページで紹介している魅力的な活動は、皆さまなしには成し得なかった。学校給食プログラムや、教育へのアクセスと成功を促進するその他の社会的介入策への投資を増やし、地方コミュニティの全ての子ども、そして全ての女の子がその可能性を最大限に発揮できるよう支援をお願いしたい。

本誌では、ISFPがどう子どもの定着率、出席率、成績を向上させているか、その素晴らしい事例をいくつか紹介する。女の子が学校に通い続け、基礎的な学校教育を修了できるようにするISFPの価値に、私と同じように刺激を受けていただければ幸いである。

大臣メッセージ



DAVID MOININA
SENGEH

首席大臣

読者の皆さん、

シエラレオネの全国学校給食プログラムの目覚ましい進展と成果を、皆様と分かち合えることを嬉しく思う。首席大臣として、私は、この美しい国全体の74万8,000人超の子どもの心に栄養を届け、未来に力を与えるこの変革的な取り組みに参加できることを光榮に思う。プラン・インターナショナル、世界食糧計画(WFP)、Catholic Relief Services、Knight Investment、Development for social Integrationといった尊敬すべきパートナーとの協力により実施されているこの取り組みは、世界最大かつ最も効果的な学校給食プロジェクトのひとつである。

Bio大統領の 教育改革計画に沿ったこのプログラムは、目覚ましい成果を上げている。日々の食事を提供することで、就学率、出席率、参加率が大幅に向上した。このプログラムは、より多くの生徒が学校に在籍し、教育を修了できるようにすることで、中途退学率の減少に重要な役割を果たしている。また、家庭の経済的負担も軽減されるため、他の必要不可欠なことに資源を配分できるようになる。特筆すべきは、女の子の力づけと彼女たちが教育を受ける際に直面する課題への取り組みに特に重点を置いていることである。

シエラレオネの全国学校給食プログラムの特徴は、HGSFPを通じた持続可能性への取り組みである。地元での農業生産を促進することで、このプログラムは栄養価の高い食事を提供するだけでなく、コミュニティ主導の経済成長も促している。生徒や コミュニティに就労機会や収入をもたらし、農業教育にも取り組んでいる。HGSFPを通じて、私たちは自給自足、レジリエンス、そしてシエラレオネの長期的な社会的・経済的発展を促進している。

シエラレオネの学校給食プログラムは、集団的な取り組みである。単なる私たちのプログラムではなく、私たちが行うプログラムなのだ。私たちが得た成功と国際的な認知は、パートナーやステークホルダーの支援なしにはありえなかった。プラン・インターナショナルとの緊密な提携と、約束を果たすという彼らの比類なき尽力に、私たちは深く感謝する。私たちは共に、より多くのシエラレオネの子どもが教育を受けられるようにし、一皿ずつ、その可能性を最大限に発揮できるようにしていく。

チームリーダーメッセージ



シエラレオネでISFPのチームリーダーとして、学校給食が教育の向上に非常に重要であることを目の当たりにしてきた。食料不安に苛まれるコミュニティを支援することで、私たちは栄養を提供するだけでなく、子どもが困難を乗り越え、潜在能力を最大限に発揮できるよう力を与えている。私にとっての成功とは、子どもが教育を修了し、有給の雇用という明るい未来への扉を開く証明書を取得したときに達成される具体的なものである。

私たちが支援するコミュニティの反応は、非常に心強いものだった。食事の質、提供される追加サービス、そして職員の献身に対する前向きなフィードバックは、このプログラムの前向きな効果を再確認するものである。また、配送の遅れやアクセス上の課題への対処の重要性など、貴重な教訓も得ることができた。これらの教訓は、私たちの戦略を継続的に改善し、私たちが支援する子どもやコミュニティのニーズに効果的に応えるよう、私たちを駆り立てるものである。私たちは共に、教育が変革の力となり、全ての子どもが健やかに成長し、より良い世界を築くことができるような未来を目指している。

ANDREW IRAGUHA

チームリーダー
ISFP

プログラムの 背景

ISFPは、シエラレオネで1,300超の就学前・小学校を支援している。これは、15万2,500人の女の子を含む30万人超の子どもが、昼に学校給食を食べる対象になっていることを意味する。MBSSEを通じてシエラレオネ政府からの資金援助とプラン・インターナショナル・カナダからの資金援助により、脆弱な子ども、家族、コミュニティのための社会的セーフティネットが構築され、子どもの教育へのアクセスが向上している。このプロジェクトを通じて、私たちはジェンダー平等と子どもの保護活動により、女の子の権利と教育へのアクセスに焦点を当てている。

なぜ学校給食プログラムなのか

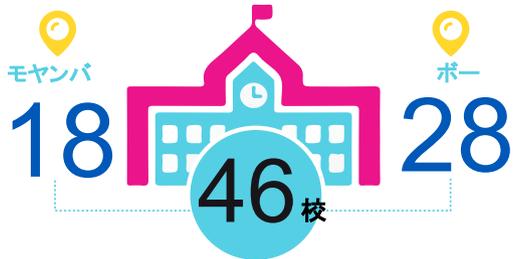
シエラレオネでは、人口の半数超が食料不足に直面している。200万人近い子どもが十分な食事を与えられず、100万人超が児童虐待の危険にさらされている。学校給食プログラムは教育へのアクセスを改善し、シエラレオネ政府の公約である地元産食品のサプライチェーンを改善することができる。ISFPは給食を提供し、ジェンダー平等と子どもの保護を促進し、社会規範に取り組む。また、就学率、出席率、栄養面での成果を高めるだけでなく、貧困家庭の経済的負担も軽減する。こうしたプログラムへの投資は、より公平なシエラレオネのために、子どもの幸福と教育を優先させるものである。



プログラム概要

フェーズ1

2021年1月～4月



フェーズ2

約 67,000人 の生徒が対象



ボア



モヤンバ

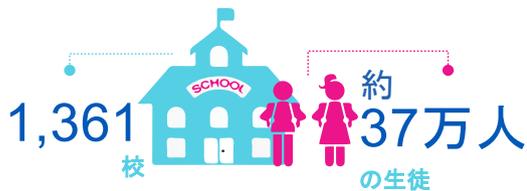


2021年4月～7月

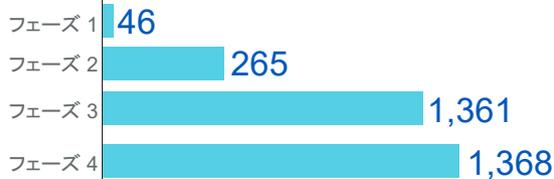
フェーズ3

2022年1月～7月

ポントロコ+ポンバリ+モヤンバ+トンコリリ+コノ+カイルファン+ボア



これは、ボアとモヤンバの学校のみを対象としていたフェーズ1と2から大幅に増加した。



フェーズ4

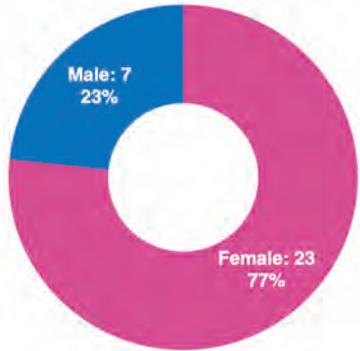


ボア、モヤンバ、カイルファン、ポンバリ、ポントロコ、WAR

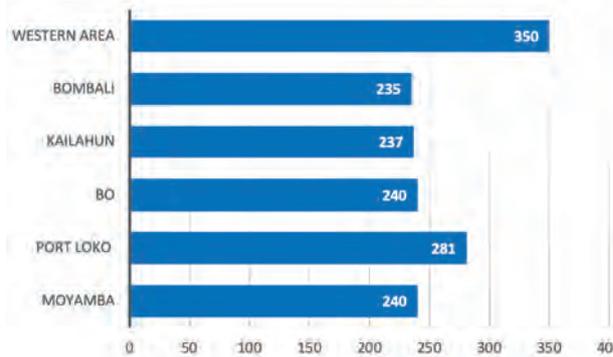
2022年11月～2023年8月



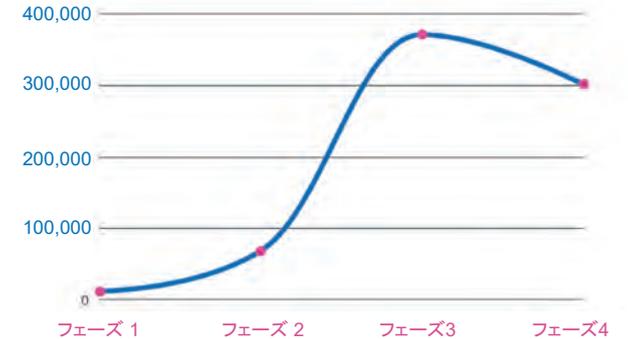
プログラム概要



女性協同組合グループ研修の参加者数

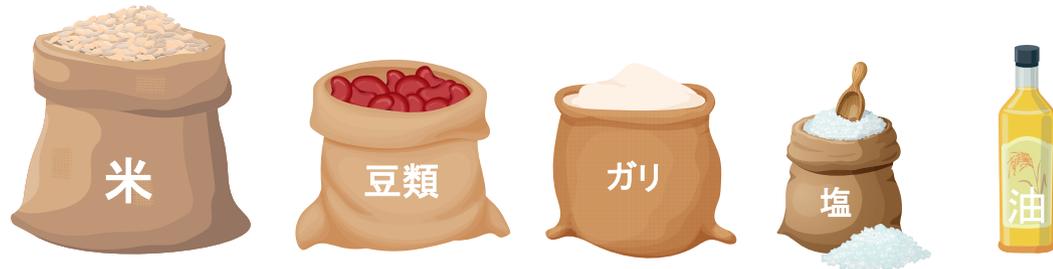


保護、子どもの保護、ジェンダー、心理社会的、前向きな子育てに関する研修を受けたコミュニティ住民の数



プログラム受益者数

実施期間中、以下の物資が支出された



フェーズ 1	176.5	44.13	7.36	14.71	
フェーズ 2	889	222	7.4	74	
フェーズ 3	2,293	774	783	150	253
フェーズ 4	3,361	975	332	150	325
					トン



ボアでのコミュニティ研修

プログラムの目的



子ども、特に女の子の教育を受ける権利の実現の改善

1  特にジェンダーの平等と包摂に関するコミュニティの関与の改善

- コミュニティ・フィードバック体制の利用増加
- ジェンダー平等と教育への包摂の障壁に関する学校教師の意識の向上

2  女の子や危機下の子どもを含む教育へのアクセスの改善

- 生徒の短期的飢餓の削減
- パイロット校における栄養価の高い学校給食の提供数の増加

3  自校式学校給食のバリューチェーンにおける学校と女性の参加の増加

- 学校給食バリューチェーンの女性主導型協同グループの知識向上
- 女性バリューチェーン関係者からの食品およびサービスの調達増加



フェーズ

フェーズ 1

このフェーズは2021年1月から4月まで実施され、ボーとモヤンバの2地区が対象となった。食料とNFIが46校に配給され、そのうち28校がボーに、18校がモヤンバにあり、合計10,672人の子どもが恩恵を受けた。

フェーズ 2

第2段階は2021年4月開始、7月終了。ボー地区とモヤンバ地区で66,989人の生徒を対象とし、ボー地区では11の地域に特別な注意を払った。これらの地域には、ウォンデの10校、ティコンコの68校、バルニアの27校、ルグブの23校、コンボヤの10校、ニアワ・レンガの12校、バンペンガオの49校、ボンゴールの22校、バグウェの10校、バグボの31校、バディヤの3校が含まれる。

フェーズ 3

フェーズ3は2022年1月開始、7月終了。これは大幅に拡大し、モヤンバ、カイラフン、ボー、トンコリリ、ボンバリ、コノ、ポートロコの7地域をカバーした。プログラム参加者の数は、フェーズ3で大幅に増加した。このフェーズの参加者数は37万1,054人で、プログラム参加者数は3,376%増加した。

フェーズ 4

2022年11月に開始、8月に終了した第4フェーズでは、ボー、モヤンバ、カイラフン、ボンバリ、ポートロコ、WARの6地区が対象となり、1,368校、30万1,397人超の生徒が支援を受けた。このフェーズでは、フェーズ3で余剰となった物資を配布するため、ターム1に「ブリッジ給食」を導入した。12月には、継続的な支援を確実にするため、休暇前の12日間、子どもに食事が配給された。

学校給食プログラムの 監視と評価



01

学校への食料配送は、運送状を通じて監視されている。説明責任を果たすため、学校長または担当者が運送状に署名する。

02

学校では、生徒の1日毎の出席率に基づき、食堂利用申請書、学校日誌、学校売店のゴミ箱カードを使って食材の利用状況を記録している。

03

食料監視員は定期的に学校を訪れ、給食プログラムを監督し、実施状況を評価し、問題を特定し、指導を行う。

04

コミュニティからフィードバックを集めるため、情報担当者が配置され、Telerivetを通じて共有される。また、コミュニティは511(フリーダイヤル)で懸念を報告することもできる。

05

学校給食プログラム実施における教訓や優良事例を共有するため、MBSSE や他のパートナーとの合同監視演習を実施。

06

私たちの品質保証チームは、食品が倉庫から学校へどう輸送されるかを監視している。また、運送状の正確さもチェックしている。

TOT



ISFP 職員





なぜ 職員を訓練するのか

ISFPIは、ジェンダー不平等や社会規範に取り組みながら、子どもに教育と栄養価の高い食事を提供することを目的としている。現地職員を対象とした研修が行われた。その目的は、関係者が、子ども、特に女の子の権利の完全な実現を阻む原因となる社会規範に疑問を呈し、挑戦し始められるようになることを目指し、職員がコミュニティにおける前向きな変化を促進できるようになることであった。

セッションのアプローチ

ポートロコでの最初のToTセッションでは、PIIA職員が、議論、グループワーク、寸劇、実演、プレゼンテーションなどの参加型アプローチを用いて、コミュニティ展開セッションのための資料を習得した。

トピック

- 学校給食の調理/衛生管理および分量
- 学校菜園
- Telerivet啓発・意識改革
- コミュニケーションと可視性
- ジェンダー平等と包摂、ジェンダー・トランスフォーマティブ・マーカー
- 保護と子どもの保護、前向きな子育て、心理社会的支援



生計専門家

コミュニティ参加



ISFPは、学校で子どもに栄養価の高い食事を提供し、出席率、定着率、参加率を高めることを目的としている。だが、食べ物の存在や、職員、当局、パートナーとの頻繁な交流は、心理的・身体的・性的虐待、搾取、ネグレクトなど、多くのリスクの増大につながり得る。これらに対処するため、いくつかの重要な行動が取られている：

- 1- ISFPの職員55名をジェンダーと保護に関するトレーナーとして養成し、教育提供者や地域コミュニティに伝える。
- 2- 学校給食プログラムによるリスクと推奨されるリスク軽減策を特定するために、子どもと大人を別々に関与させた。子どもからのフィードバックを得るために、スコアカード方式を採用。
- 3- 教師、SMCメンバー、フォーカルポイント、母親クラブのメンバーなど、1,583人超の関係者を対象に、子どもの保護に関する研修を実施。
- 4- ISFP実施に関する意見や苦情を受け付ける511番フリーダイヤルをコミュニティに普及させる。
- 5- ラジオ討論会を定期的に行い、子どもの保護、ジェンダー平等、子どもの教育の重要性に関する地域コミュニティの意識を高める。
- 6- 食の安全、衛生、分量について、166校のフォーカルポイントとコックの研修を実施。こうした取り組みは、子どもを守り、安全なプログラム環境の維持を目的に実施された。

研修は、TOTワークショップを受けた現場職員が担当した。彼らは、プレゼンテーション、議論、ロールプレイ、実演などの多様な対話方式を採用した。

全体として、この研修により、コミュニティと学校の関係者は、より包括的で説明責任のある環境を作り、コミュニティの子どもの幸福と発達を守ることができるようになった。



ステークホルダー研修



学校給食における ジェンダー平等と包摂



ISFPIは、シエラレオネの女の子の教育を強化するために、ジェンダー格差に取り組むことの重要性を認識していた。不十分な食料、危険な行動、社会規範の影響を分析することを通して、ISFPIはフェーズ4の間、MBSSEの抜本的包摂政策(2021年4月8日制定)に対応したジェンダー対応プログラムを設計した。



プラン・インターナショナルは、学校給食プログラムを実施しているコミュニティ全域で、教師、SMCメンバー、地区の関係者を対象に研修を実施し、彼らの能力を高め、子どもと関わる際にジェンダーに配慮できるよう知識を深めた。これらの取り組みは、シエラレオネのジェンダー平等と、女の子と女性の教育機会を高めることを目的としている。



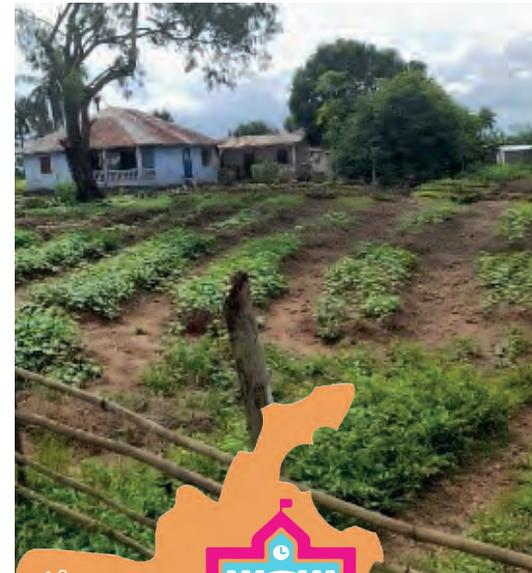


WAR 立ち上げ



ISFPは2023年1月30日、MBSSEの協力のもと、WARを正式に発足した。このイベントでは、展示、スピーチ、生徒のパフォーマンス、学校給食プログラムの紹介などが行われた。

自家栽培活動



1. St. Ambrose小学校
マオマ、マシカ
2. KRIPS
フウドウセクション、マシアカ
3. Ahmadiya Muslim小学校
フウドウセクション、マシアカ
4. St. Peters RC 小学校
ロメニ



1. ICS小学校
ニャグバフン
2. MDEC小学校
モヤンバ・ジャンクション
3. MDEC小学校
ンジャティフン
4. Seven Days Adventist
ニャグバフン



なぜ自家栽培なのか

シエラレオネは、400万人超が深刻な食料危機に直面している。

MBSSEは2021年に全国学校給食政策が可決され、ISFPの基礎的枠組みを築いた。この政策の中に、HGSFPの具体的な実施指針が詳述されている。HGSFPは、相互性、コミュニティの参加と所有権、補完性、費用対効果と有効性、持続可能性、社会的公平性とジェンダーを含む12の指導原則を用いて開発された。これらの具体的な原則が、ISFPのサプライチェーンに地場産食品を導入するという決定を後押しした。

菜園の種類

バイオ農薬、液体肥料、有機土壌管理を用いた環境に優しい栽培

乾季対策

これには、乾季の間、学校に散水用具や効果的な給水設備を提供することも含まれる。

今後の計画

- 野菜生産の進捗確認
- 保護者と学校運営側の参加
- 余った野菜を売る
- 30校に拡大する可能性
- 貯水の実施
- 他の生計プロジェクトとの連携

学校菜園プログラムの進め方



1. 評価：ポートロコとモヤンバの学校が、試験的な学校菜園プロジェクトのために評価された。水へのアクセス、利用可能な土地、SMCの準備状況などの基準に基づいて8校が選ばれた。
2. 管理人の選定と研修：菜園の管理に8人の管理人が選ばれた。管理人は、栽培の基本、農具の使い方、記録の保存、保護方針に関する研修を受けた。
3. 道具の調達と種子の検査：基本的な農具の調達は完了。種子の検査が計画され、種子を含む物資の配布が5月に予定された。
4. プランの職員が定期的に監視を行う。

学校菜園試験で恩恵を受ける学校と地区

ポートロコ

St. Ambrose小学校
KRIPS
Ahmadiya Muslim小学校
St. Peters RC小学校

モヤンバ

ICS小学校
MDEC小学校
MDEC小学校
Seven Days Adventist

影響力のある物語

注:物語に登場する子どもの名前は本名ではない。



Ishatuと母、姉妹たち



成功を支える燃料： 満腹がISHAの教育を後押しする



「ISFPのおかげで、学校で毎回昼食を食べてます。おかげで授業に集中できて、感謝しています」。

Ishatu

Ishatu(Isha)は、シエラレオネのポートロコ地区の小さなコミュニティに住む10歳の女の子だ。明るく好奇心旺盛で、いつも新しいことを学びたがっている。彼女は現在、小学校3年生である。4人姉妹の3番目として、家計のやりくりで苦勞しているシングルマザーに育てられている。Ishaの母親には仕事がなく、子どもを養うためにしばしば借金をしなければならない。シエラレオネ政府がプラン・インターナショナルの実施するMBSSEを通じて学校給食プログラムを導入する以前は、彼女の母親は学校のために1レオン(0.04ドル)しか与える余裕がなかった。そのため、Ishaは昼食を食べるお金もなかった。

そのため、Ishaはしばしば学校に遅刻したり、授業を完全に欠席したりした。Ishaは毎日朝5時に起き、食器を洗い、水を汲み、学校に行く準備をする。Ishaと彼女の姉妹は同じ学校に通っており、みんな毎日歩いて通っている。放課後は家の掃除と水汲みをする。彼女たちはワンルームのアパートで、叔母とその子どもを含む6人と共に暮らしている。そのため、Ishaと姉妹たちは床で寝なければならない。



彼女は、叔母が母親に冤罪を着せ、母親は事業を失い、家庭内闘争に巻き込まれ、一家は経済的に苦境に立たされている。彼女の母親は子どもを経済的に支えるのに苦勞しており、学費の支払いのために教師に助けを求めなければならない。



しかし、彼女たちの学校ではISFPが実施されているため、今では毎日給食を食べている。

ISFPは単に食事を提供するだけでなく、子どもが学び、成功するチャンスを与えています。私は、ISFPがIshaや彼女のような多くの子どもの生活の変化を目にし、それが私たちの未来への重要な投資であると信じています。

Musa Koroma

Ishatuの教師

Musa KoromaはIshaの教師である。彼はIshaを、教わったことは何でもすぐに吸収する優秀な女の子だと言う。だが、学校給食プログラムが導入される前は、Ishaの家族は食費の捻出に苦労していたため、Ishaはしばしば学校に遅刻していたとKoromaは明かす。彼は、Ishaが彼の家を訪れ、彼はIshaに食事を与え、Ishaはそれを姉妹と分け合っていたと回想する。彼は、学校給食プログラムの重要性を強調する。そのおかげで、Ishaや他の生徒は、次の食事がどこで手に入るかを心配せずに勉強に集中できるようになったからだ。このプログラムを導入して以来、Ishaはクラスで積極的に発言するようになり、クラスの代表として発言したり、質問に答えたりするときには、一番積極的な子にさえなった。彼は、コミュニティの多くの子どもが学校に行きたくても貧困のために行けないことを強調している。Koromaは、学校給食プログラムが将来も計画されているようにし、Ishaのような子どもへの支援を継続するよう政府に要請する。このような支援があれば、コミュニティのより多くの子どもが教育を受ける機会を得て、潜在能力を最大限に発揮できるようになると彼は確信している。



学校給食の力： Kadiatuの物語



朝起きて最初に考えるのが学校での食事で、
毎日楽しみにしています。

Kadiatu

Kadiatuはポートロコの小学校に通う12歳の女の子だ。まだ幼いにもかかわらず、彼女は既に多くの苦難を経験している。祖母と二人暮らしで、母親とは一度も会ったことがなく、父親は彼女の面倒を見てくれない。祖母は高齢で働けないため、2人は生活に苦しんでいる。

彼女の状況は、以前の学校に通っていた頃は特に厳しかった。彼女は学費を払うことができず、小学校の先生が家事をする代わりに学費を援助してくれた。これは彼女が小学校を卒業するまで続いた。しかし、経済的にはまだ苦しく、5年生になったとき、経済的な問題で学校を去らねばならなくなった。

ありがたいことに、彼女の隣人が彼女を新しい小学校に連れてきて、学費を払うことなく受け入れてくれた。彼女は学用品、制服、本、靴下もすべて無料で与えられた。

しかし、学校の援助があっても、Kadiatuの生活は苦しいままだった。彼女は祖母と一人部屋を借りて住んでいるが、家は雨漏りし、トイレもない。祖母は毎月50レオン(2.2ドル)の家賃を支払っているが、2人は多くの人に頼らなければならない。彼女は毎日朝5時に起きて、家を掃除し、皿を洗ってから学校に行かなければならない。



シエラレオネ政府がMBSSEとプラン・インターナショナルを通じて学校給食プログラムを実施する前は、Kadiatuは給食なしで学校に通っていた。彼女はよく、彼女と祖母のために料理をしに家に帰るまで待つ必要があった。隣人や教師からその日の食費をもらった場合のみ、食事をする事ができた。このような状況は彼女にとって過酷で、健康にも影響し、たびたび体調を崩していた。



校外のKadiatu

ISFPの導入で、Kadiatuの生活は変わった。学校生活で食事の心配をする必要がなくなり、毎朝、食事が楽しみになったほどだ。学校が毎日健康的な食事を提供することで、彼女はより元気で健康的になり、放課後は勉強する時間が増え、とても助かった。

ISFPは、彼女が学び成長するのに必要な要素を与えるだけでなく、より良い未来への希望も与えてくれる。彼女の夢は医者になることで、これまでの人生で人に助けられたように、コミュニティ住民を助けたいのである。彼女は変化をもたらし、家族やコミュニティを長い間苦しめてきた貧困の連鎖を断ち切りたいのだ。

「ISFPは生徒の健康と幸福に大きな影響を与えてきました。単に食料を提供するだけでなく、彼らが学び、成長するためのエネルギーと意欲を与えているのです。」
(Kadiatuの教師)

Florence B. ContehはKadiatuの教師である。彼女は、学校給食プログラムが導入されて以来、Kadiatuが大きく変わったことに気づいた。Kadiatuは頻繁に病気にならなくなり、学校でも活発になった。彼女はこのプログラムに感謝している。それは、子どもに食事を与えるだけでなく、学ぶ活力と意欲を与えるからである。教員も満腹の子どもに教えることができ満足しており、このプログラムによって出席率と定着率が向上している。Kadiatuの物語は、恵まれないコミュニティの子どもに学校給食がもたらす変革の力を私たちに示している。



学校給食を通しての学業と 人間的成長



「以前は食べ物の心配ばかりしていたけれど、今はISFPのおかげで勉強や将来に集中できるわ」。

Haja

Haja Zaniab Koromaの生活は決して楽なものではない。若干11歳の彼女は、毎朝5時に起床し、皿洗い、掃き掃除、水汲み、手足がなく目が不自由な叔父の入浴を兄弟と共に世話をしている。彼女は母親と会ったことがなく、父親は遠く離れたフリータウンで大工をして暮らしている。

彼女は叔父と兄弟と3人で寝室1つの家に住んでおり、全員が床で寝ているが、雨漏りした屋根から水が部屋に入ってくる。自宅にはトイレがないため、用を足すときは隣の家のトイレに行かなければならない。

厳しい生活状況にもかかわらず、Hajaはポートロコ、ルンサールトاون、マランパ首長区にあるOur Lady of Guadalupe小学校に通っている。祖母が叔母の勧めで彼女をこの学校に連れてきた。彼女は彼女の年齢に必要な点数で入学試験に合格することはできなかったが、幸運にもこの学校に入学することができた。学費は無料で、制服と教科書は学校から支給された。彼女は6年生ではなく3年生に編入された。この挫折にもかかわらず、Hajaは頑張った。早起きして学校に来るのは楽しいが、家事で忙しく、遅刻することも多い。学校が終わると、彼女は家に帰り、料理をし、水を汲み、洗濯をし、また叔父に食事をさせる。Hajaが家事を終える頃には夜も更けており、彼女は勉強するのに苦労する。

ISFPが始まる前、Hajaは食べ物も持たずに登校し、空腹のまま寝ることもよくあった。ISFPは彼女の生活に大きな変化をもたらした。彼女はもう食べ物の心配をしなくなり、時には学校で食べたものを翌日まで食べて寝ることさえある。プログラムのおかげで健康状態も改善され、今では元気に目覚め、勉強にも集中できるようになった。



「ISFPのおかげで、生徒の学業成績が大きく向上しました。向上したのは身体的健康だけでなく、精神的健康も同様です」。

Monica Gibateh -Haja の教師

Hajaのクラス担任のMonica Gibatehは、ISFP開始後、Hajaの学業成績が著しく向上していることに気づいた。Hajaは空腹に気を取られることがなくなり、クラスの議論に積極的に参加できるようになった。彼女のメンタルヘルスも改善された。Gibateh は、彼女が直面する困難な状況を鑑み、彼女のレジリエンスと勤勉さに感銘を受けた。困難な状況にもかかわらず、Hajaは前向きで、他の子どもに学校に残り、教育を修了するよう勧めている。彼女は、今の苦しみが過ぎ去り、将来教育の恩恵を受けることを知っている。ISFPは彼女の人生に大きな変化をもたらした。それは身体的健康だけでなく、精神衛生でも同様である。学校で良い成績を収め、明るい未来に向かって努力するために必要なエネルギーと集中力を与えてくれた。また、このプログラムはコミュニティ全体にも好影響を与えている。生徒全員の学業成績が向上し、子どもを養うのに苦労している家族に希望をもたらしているからだ。





ISFPのガリ生産担当の紹介



何かをやりたいときは、心を込めてやりなさい。信頼されることを学ぶ;それが、人があなたが望むことを達成するのを助けてくれるようにする。

Hawa Agnes Bio

Muamia 女性協同組合リーダー



この協同組合にはとても助けられています。4人の子どもの持つシングルマザーとして、私の子どもはISFPの恩恵を受けていますし、私もガリの生産を通じて恩恵を受けています。プラン・インターナショナルに感謝します。

Lucia Bio

Muamia 女性協同組合管理者



人生で何をするにしても、一生懸命やること。
そして、何かをしている女性を見かけたら、必要な支援を全てしてあげてください。女性が手をかければ、何でも広がり、大きな変化をもたらすのですから。

Abubakarr James

Muamia女性協同組合マネージャー



私は議長として、すべてが円滑に進むよう取り計らいます。工場での調理とキャッサバの加工を監督しています。Hawa Bioの最初の研修生の一人として、私はMuamiaの成長と好影響を目の当たりにしてきました。

Isatu Kallon

Muamia女性協同組合理議長



Muamia 女性協同組合は、女性のエンパワーメントとコミュニティの協力がもたらす変革の力の顕著な例である。1996年にMolumaという小さな女性グループとして始まったこの協同組合は、現在ではシエラレオネで強い存在感を示す繁栄する協同組合へと発展した。Hawa Agnes Bioのリーダーシップの下、この協同組合は職業訓練を提供するだけでなく、学校を建設し、持続可能な農業を実践し、キャッサバ加工企業を設立して成功を収めている。この感銘深い事例研究は、Muamiaの道のり、プラン・インターナショナルが果たした極めて重要な役割、そして彼らがコミュニティに与えた多大な好影響を紹介している。

1996年に設立されたMolumaは、Hawa Bioによってわずか5人のメンバーで設立された女性グループである。グループの目的は、貧困と紛争の影響を受けた女性に、大工仕事、ガラ絞りに染め、石鹸作りを訓練することだった。より持続可能なアプローチの必要性を認識したMolumaの女性は、「We Are the One」を意味するMuamiaの結成を決定した。Muamiaは10グループで構成、各グループは30人、合計300人のメンバーで構成された。各グループに女性25人、男性5人を擁するMuamiaは、団結力を育むことを目的とし、卒業した女性たちが共に働くためのプラットフォームを提供している。

Muamia 女性協同組合は活動を多様化し、キャッサバの加工、付加価値付け、販売に乗り出した。同協同組合は、キャッサバを農家の門前や個人農場から調達する一方、他のグループ農場とも連携していた。キャッサバの加工には、栽培、洗浄、すりおろし、圧縮、乾燥といった段階を経る。最終製品は、西アフリカの人気料理であるガリ(小麦粉)の生産に使われる。ココナッツ・ガリや普通のガリなど、さまざまな種類のガリが生産され、キャッサバ粉も加工されている。Muamiaの成功はキャッサバ加工にとどまらず、子どもの教育を保証するために、就学前施設を設立し、後に小学校も設立した。



現在はプレスクールとして使用されている、Muamia 第一職業訓練学校の校舎



Muamiaとプラン・インターナショナルの協力関係は2020年に始まり、徐々に強化されていった。当初、MuamiaはポーのISFPに食事を提供していた。協力関係が深まるにつれ、Muamiaはポー、カイルワン、モヤンバのプラン・インターナショナルにガリの供給を拡大した。需要が増えたため、Muamiaは他の女性グループを組み込んで仕事量の増加に対応し、ポーとモヤンバに集中できるようにした。協同組合は、プラン・インターナショナルに9,000袋を超える大量のガリを供給した。

プラン・インターナショナルとの協力は、Muamia女性協同組合に大幅な改善と成長をもたらした。この協力により、協同組合は農園やその他の取り組みを拡大することができた。プラン・インターナショナルの資金援助により、Muamiaは藁葺きの家からコンクリートの建物へと移行することができた。最初の建物を建設することができ、利益を再投資して、現在2棟目の建物を建設中である。この協同組合がインフラに再投資できたことは、持続可能性と開発を促進する政府支援のプラスの効果を実証している。



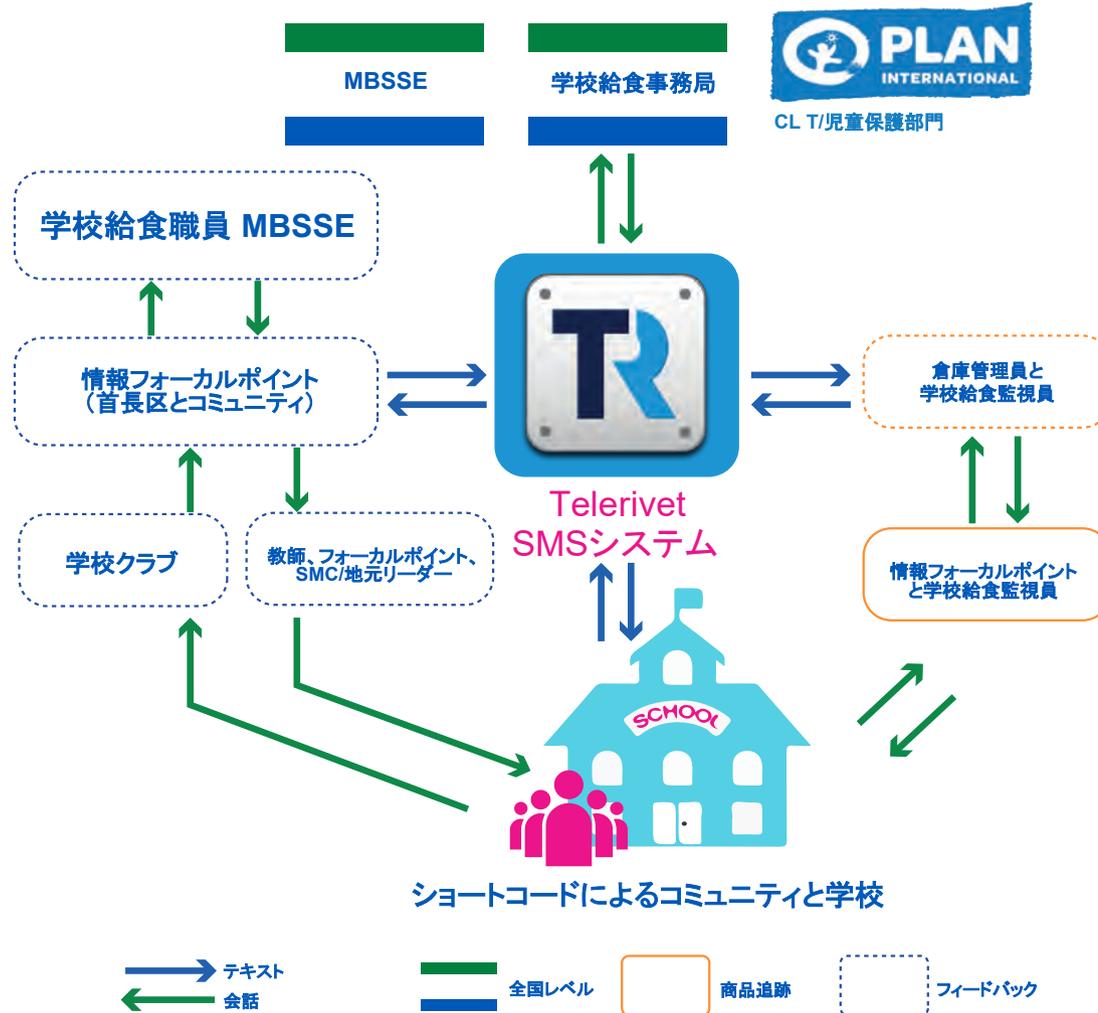
Muamia女性協同組合は、労働力不足、原材料費、加工費、農家から農家への物流など、いくつかの課題に直面している。こうした障害があるものの、協同組合は繁栄と成長を続けている。Muamiaのレジリエンスと成功は、協同組合が達成した前向きな影響力と長期的な影響を目の当たりにすることで、国内の他のグループに活力を与えている。

今後、Muamiaはシエラレオネ全土でキャッサバ加工事業を拡大し、近代的設備を導入して効率を高めることを目指している。学校を拡張し、就学前から中等教育、更には大学の設立も目指している。彼らのビジョンは、コミュニティ開発と協同組合グループの子どもの教育への献身を反映したものであり、次世代への明るい未来を保証するものである。

Muamia女性協同組合の感銘深い道のりは、女性のカづけ、コミュニティの協力、戦略的提携の変革のパワーを示している。政府とプラン・インターナショナルの支援により、Muamiaは事業を拡大し、女性に力を与え、コミュニティを向上させながら繁栄してきた。持続可能な開発、教育、革新的なキャッサバ加工へのMuamiaの献身は、希望の光となり、変革の触媒となった。



コミュニティ・フィードバック体制



Telerivetという説明責任とフィードバック手段へのアクセスは、ショートコード511にテキストまたは電話で。



ISFPに影響を及ぼす不正行為(虐待、詐欺など)を目撃した場合、このショートコードを使って報告を。

また、このショートコードを使って情報収集したり、ISFPの状況や改善策について思いや意見を共有したりすることも可能。



Telerivet

Telerivetは、遠隔地でのコミュニケーションに使われる携帯メッセージングプラットフォームである。参加者、コミュニティ住民、情報フォーカルポイントからテキストでフィードバックを集めることで、ISFPのフィードバック手段として機能している。



ISFPのフィードバック収集にTelerivetを使用する利点には、体系的なデータ収集、積極的な監視、リアルタイムの商品追跡などがあり、プログラムの強化と説明責任の向上につながる事が挙げられる。

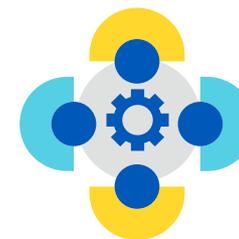


Telerivetを通じて集められたフィードバックは、改善点を特定するために分析され、学校給食プログラムの有効性と参加者のニーズへの対応力を高めている。

ISFPでTelerivetの導入に成功したことで、コミュニティの所有権が高まり、双方向のやりとりが可能になり、プログラムの効果が向上した。



平均して毎月150件超のフィードバック報告が記録され、現場職員は迅速かつ継続的に対応している。主要な問題については、セクターの専門家に報告され、更なる対策が講じられる。



Telerivetは、保護者、教師、コミュニティ住民などの利害関係者が意見を述べ、質問し、プログラム実施に貢献できるようにすることで、透明性と説明責任を促進している。



PISL ISFPチーム

6 Cantonment Road, Off Kingharman Road PMB 245, Freetown

www.plan-international.org/Sierra-leone



-  sierra-leone.co@plan-international.org
-  Instagram: [Plan_Sierraleone](https://www.instagram.com/Plan_Sierraleone)
-  Facebook: [PlaninternationalSierraLeone](https://www.facebook.com/PlaninternationalSierraLeone)
-  Twitter: [@Plan_SLE](https://twitter.com/Plan_SLE)